

・日時	2023 年 11 月 9 日（木） 10:00～11:00		
・出席者	代表取締役社長	最高経営責任者 CEO	酒井 幹夫
	取締役 兼 上席執行役員	最高経営戦略責任者 CSO	田中 寛之
	上席執行役員	不二製油(株)代表取締役社長	大森 達司
	上席執行役員	最高財務責任者 CFO	前田 淳

**Q.ブラマー（業務用チョコレート事業・米州）の期初計画は、下期以降米国の景況感の改善や中間流通在庫の調整一巡による改善を見込んでいたと思うが、足元の状況変化、及び修正計画にはどのように織り込まれているのか。**

A.当初下期に改善を見込んでいたが、足元においても金利の高止まりや景況感の低迷、米国のチョコレートの消費も減少するなど厳しい環境が続いている。ブラマーの下期の計画ではこれらの環境変化や、想定されるリスクを一定程度織り込んでいる。需要変化に応じた生産体制の見直しやコストコントロールを行うことで計画達成を進めていく。

**Q.ブラマーに松本前 CFO の赴任以降どのような効果が現れているか。また、中長期的な改革は今後示されるのか。**

A.2023 年 7 月に松本がブラマー会長兼社長として赴任して以降、不二製油グループ本社とブラマーの連携により、グリップをより強め、経営判断の早期化を図っている。

ブラマーの中・長期的な改革については、外部環境の変化も鑑みながら協議を重ねている。なるべく早いタイミングで皆様にご説明できるよう、検討している。

**Q.今上期の日本エリアの業績が改善しているが、下期以降も継続すると見ていいのか。**

A.今上期の業績は、主原料であるパーム油などの原材料の価格の安定的な推移や人流回復による土産市場向けの販売が伸長したが、流通菓子向けの量目減により販売数量が減少した。下期においては、流通菓子向けの量目減の影響に加え、為替円安、エネルギーコストの上昇、カカオや砂糖の価格上昇などが想定されるが、これらのリスクを織り込み下期計画を作成しており、下振れのリスクは極めて低いと考えている。数量の回復を図ることで計画の超過達成を目指したい。

**Q.強化を進めている原料ポジション管理の徹底の進捗と効果は。**

A.現在、各社の主要原料ポジションを管理できる体制を構築できている。もちろん原材料の影響をゼロにはできないが、原料相場の変動によって発生する影響を素早く判断し、価格政策などの対応策を行うなど実績が挙がっている。

**Q.植物性油脂事業の業績改善の一つの要因としてフジオイルニューオリズ（植物性油脂事業・米州）の固定資産譲渡やポートフォリオの見直しがあると思うが、今後も事業ポートフォリオの見直しを行っていくと期待しているのか。**

A.2022 年度より事業軸でのマネジメント強化を進め、事業や製品のポートフォリオの見直しや各事業の強化を進めている。植物性油脂事業では、パーム油の調達において RSPO 認証油の割合が 5 割を超え、サステナビリティの取り組みが実績に結びついている。業務用チョコレート事業では、ブラジルや欧州では油脂技術を活用した差別化製品の展開し、販売数量が伸長し、収益性も向上している。乳化・発酵素材事業では、クリームなどの製品で高い評価を得ている。大豆加工素材事業では、大豆たん白素材や機能剤などの競争力の高い製品をより一層強化していきたいと考えている。各事業で製品と市場のマトリクスで分析し、当社の強みが活かせる分野に特化していく。